

昭和医科大学保健医療学部学生が卒業時に有している能力（コンピテンシー）

1. プロフェッショナリズム

- ・ 医療倫理を基盤に、保健医療職としての役割・責任を自覚し、患者中心の医療の中で行動できる。
- ・ 医療を実践するためのルールや法律を遵守することができる。
- ・ 患者ならびに患者家族、医療に関わる多職種に対して、真心と誠意をもって接することができる。

2. コミュニケーション

- ・ 患者中心の医療を実践するために、患者ならびに患者家族、多職種との円滑なコミュニケーションを図り、情報を共有することができる。
- ・ 患者ならびに患者家族、多職種に対し、相手を尊重しながら自分の考えをわかりやすく伝えることができる。
- ・ 患者ならびに患者家族、多職種の視点、思いや考えを受け止め、相手の立場を尊重することができる。
- ・ リフレクションを通して、自分の価値観、思い、考えを見つめ直し、自らの課題を明確にすることができる。

3. チーム医療

- ・ チーム医療の意義を理解し、共同で問題を解決する医療に参加できる。
- ・ 多職種の専門的役割を理解し、尊敬の視点をもって連携、協働できる。
- ・ 患者中心のチーム医療において、保健医療職として自職種の役割・責任を自覚し、専門性を発揮できる。

4. 専門的実践能力

4-1) 看護学科

- ・ 人々が生活するあらゆる場において、それぞれの健康レベルに応じた看護を実践できる。
- ・ それぞれの健康レベルに応じた看護を実践するために、必要な情報を収集し、アセスメントし、看護計画を立案できる。
- ・ 看護を実践するのに必要な知識・技能・態度に裏付けされた看護援助を実施できる。
- ・ 実施した援助について評価し、次の援助に活かすことができる。

4-2) リハビリテーション学科（理学療法学専攻・作業療法学専攻）・理学療法学科・作業療法学科

- ・ リハビリテーション専門職（理学療法士・作業療法士）として、病気や障害を持つ人の全体像を捉え、生活の向上に繋げるための治療・援助を実践できる。

- ・ リハビリテーション専門職（理学療法士・作業療法士）として、さまざまな病期にある人の治療・援助計画を立案できる。
- ・ リハビリテーション専門職（理学療法士・作業療法士）として、知識・技能・態度に裏付けされた治療・援助を実施できる。
- ・ 実施した治療・援助について評価し、次の治療・援助計画に活かすことができる。

5. 社会的貢献

- ・ 保健・医療・福祉の制度とシステムを理解し、それぞれの活動現場においてその知識を活用できる。
- ・ 地域医療に参加し、地域住民の健康回復・維持・向上に貢献できる。

6. 自己研鑽

- ・ 最新の知識や技能、必要な情報を国際的視野にたって獲得し、科学的な思考力を高める意欲と態度を有する。
- ・ 保健医療職として、生涯にわたり学修と探求を継続するための自己学修の習慣を有する。
- ・ 医療における自らの行動を常に省察して、自己改善に努めることができる。

7. アイデンティティー

- ・ 昭和医科大学の伝統を重んじ、その名誉を高めるために全力を尽くす。
- ・ 保健医療職として、自職種の役割・責任に基づき、専門性を発揮できる。